

発行所 東京都文京区大塚町
35番地 桜蔭会旧館内
社団 法人 大学婦人協会
電話大塚(941)9210
編集兼 発行人 一番ヶ瀬 康子
発行日 昭和39年6月10日
(第55号)

JAUW

おもな記事
井上・山崎・吉田先生の追悼
総会報告
総会報告 つづき
総会に出席して
難民女子学生救済について
抱負（国際第二・教育・社会福祉）
会計報告

会長あいさつ

北村孝

四月上旬に開催された大學生婦人協会の総会で再び会長の役目を引受けることになりました。会は員のものである。員一人一人によつて動かされているもので私もその中の一人としての一つの役割を与えられたのだという考え方でお受けしたのですが一任期を終えたのです。がわかつてまいりますと今までにも増して自分の力の足りなさや思慮の至らぬことを思ひ知られて、果してこの任を負うことが出来るかあやぶまれます。これはたゞ会員の皆様がそれぞれの役割を果して下さることによってのみ可能なること

で、ひたすら皆様の協力と鞭撻とを仰ぐ次第でござります。

今年も私共の前には為すべき仕事が沢山迫つてきております。總会で決定されたこと、話し合われたことをそれぞれの立場において取り上げて一步一步前進してまいりましょう。全国の支部と本部が一丸となつて女性の教育と生活と地位の向上をめざして仕えてゆく此の一年の歩みの中から豊かな経験を得てゆきましょう。今年は特に支部との交流を密にして会の活発な運営に備えたいと思います。倍旧の御協力をお願ひいたします。

第7回 通常総会ひらかる

桜の花満開の4月5日、名古屋城をのぞむ共済会館で、

社団法人 大学婦人協会		第七回通常 総会記録		三、追悼 故井上秀 故山崎み つ 故吉田武子三氏の 追悼会	
日 時	昭和三十九年四月 五日(日)九時半	場 所	名古屋市 名古屋共済会館	四、書記選出	
出席者	七五名	委任状提 出者五四七名	計六二二名	五、報 告	
参加支部	阪東京群馬奈良岐阜	大	1 昭和三八年度本部、支 部報告による 報告(同封の別紙参照)	理 事 會 及 び 評 議 員 會 の 承 認 を 得 た 左 記 の 議 案 に つ い て 承 認 を 求 め い づ れ も 全 員 又 は 大 多 数 の 贊 成 を 得 て 可 決 し た 予 算 案 同 封 別 紙 の 三 十 九 年 度	三、追悼 故井上秀 故山崎み つ 故吉田武子三氏の 追悼会
書 誌 記 長	廣島 仙台 北村 青木満里子 滴知子	秋田 函館 京都 新潟 三浦 寺沢淑子	六、審 議	1 昭和三八年度收支決算	1 事 業 報 告
一、總会成立確認					



総会において

場所 名古屋共育会館

ために捧げられまして、明治、大正、昭和にわたって荒地のようであつた女子教育のため開拓的な数々の輝かしい業績をお残しになりました。即ち日本で始めの家政学科を設けられ、女子のため真の大学教育を進められて、永い間学長でいらした日本女子大学の今日の搖ぎない基礎を築かれたのでござります。また学校教育ばかりでなく、社会教育としては通信教育を実施され夜間学校を創設なさいました。国際的には日本婦人平和協会、汎太平洋婦人会議の設置にご尽力、数年前にはM.R.A精神教育の探究のために大橋先生とスイスのヨーに赴かれました。一方先生は平和なご家庭の奥様でいつもおさらかに人に接しておられました。私も時折大学婦人協会の用事で桜楓会館でお目にかかるせて頂きましたが、ある時国電で目白駅からご一緒になりました。話は募金のことになりました。「私はもう八十をとうにこしてい

同じ職におられました。卅四年四月に副会長を経て大學生婦人協会々長となられ事務所を津田英語会構内からお茶の水大学構内に移して鋭意会のためにご尽力下さいました。つづいてご発病三年のご斗病の後に今年一月十三日御年七十二才でご逝去遊ばしました。ご経歴の示す通り学問一すじに捧げられたご生涯であります。東北大學に御研究の際当時は大學教育は女子に固く閉ざされていた時代とて仮入学とかいろいろ厳しい制約があり、今の女子研究学者には想像もつかない困難を乗り越えてご研究を続けられた由うかゞいました。大學婦人協会は先生が会長ご就任以前から學識経験者として国外留学生審査委員にお願い申上げておりました。頑強なご体格に竹を割つたような磊落なご性格で明治時代の女書生というような面影をおもちでいらっしゃいました。意見がちがいます時には卒直に反対なさいますがあとはさっぱりと流しておしまいにならぬものではないのです。ご案じ申上げました。ばご病気がかくれておられたこと、本当に申歌したことをいたしました。後三年の間、斗病のあれば入院とご自宅療法を月づつくり返しておました。現職の専修大學生婦人協会の事は常に任をつよくお感じてこられて下さいました。私から絶えず適切な指導をえています。私が見舞に上りますと私学者だから自分の身体とは細大もらさずすみませんまで知っているから心のことをは分りましまったが、絶間のないひどい下痢でございました。先生が大病になると、絶えず心配で寝つけましたらば、この状態で静かに細く

をついておられ悲しみに息つきました。東大病院の医術を感じてすべてを委かされ、御自分で身のいのちをおわりまでみつめられて最後は宗教に帰依されておねむりになりました。そこに独身の科学者のが自分に厳しい尊いご生涯を仰ぎました。しかし、あんなに JAUW を愛して下さった吉田先生とあと十一年温かい友情のうちに楽しく暮すことができましたならばどんなによかったかと悲しみはつきません。

井上先生、山崎先生、吉田先生お三方様のそれぞれのおえらさと私共にお残し下されたお教えはとても短かい時間ではお話しつくすることは出来ません。

会員の皆様のおひとりび想いに御合せて不束ながら真心こめて追悼の辞を述べさせていただきます。

昭和三十九年度	大学婦人協会	理事および監事	会長	北村孝
"	副会長	村井孝子		
監事	書記	竹内和子		
"	会計	平川光枝		
東京支部長	財務	青木満里子		
"	企画	今井富美枝		
社会福祉	国内奨学	関根初枝		
教育	国外奨学	貞方春野		
会員	国際第一	中野静子		
大学基準	国際第二	増田勢似子		
婦人の地位	田辺幸子	柏谷よし		
報道	近藤かつ代子			
監事	松本武子			
"	加藤ハツコ			
東京支部長	一番ヶ瀬康子			
山崎文子	国田百合子			
監事	野見山不二			
"	今井よね			

